

〔編集後記〕

まず、かねてより懸案であった、『社会科学ジャーナル』執筆要綱が確定され、今回より執筆者各位に参照して頂いた結果、校正段階での体裁上の補正等の手間が大幅に省かれることになり、かつその補正等の作業も、明確な拠るべき基準が与えられて、大いに能率化されたことを御報告するとともに、次号以降の執筆者各位には、同要綱、「原稿作成要領」の一層の厳守を重ねてお願い致します。

次に、前21号(2)の編集後記にもふれられた、放置できないとされる事情は、21号(1)の編集後記の中で提案されているように、なるべく早い機会に所員会議の議題としてとり上げ、この問題を多面的に再検討し、かつ速かに何等かの改善案をつくり上げることが、当研究所緊急課題の1つであることを改めて強調したい。

なお、次22号(2)は『辻清明教授古稀記念号』として、既に執筆者も内定、1984年3月刊行を目標に準備中であることを申し添え、本22号(1)が、執筆者ならびに校正その他の事務の労をとられた皆様のお力添えにより、予定通りの刊行の運びに至ったことを心より感謝申し上げる次第である。

(橋本哲一 記)